

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795600010		
法人名	有限会社 ディスカバリー		
事業所名	グループホーム虹Ⅱ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護事業所		
所在地	大阪府泉南市中小路2丁目1860番地の1		
自己評価作成日	令和 4年 11月 21日	評価結果市町村受理日	令和4年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの生活に応じて職員が対応の仕方をかえ、より良い雰囲気や、楽しく過ごせる日々を叶えられる様に支援します。
--

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

[https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosvoCd=2795600010-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=2795600010-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)
訪問調査日	令和 4年 12月 3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長い歴史を持つ医療法人と同系列の有限会社の運営で平成15年に開設された3ユニットのグループホームです。4年前に新たにホームの名称を「虹Ⅱ」に改めました。これまでの実績を積み重ねたうえで、よりよいケアを目指して管理者以下職員一同で取り組んでいます。ホームは同系列の病院、老人保健施設と接続しており、充実した連携体制は利用者・家族の安心に繋がっています。玄関では、マスコットキャラクターの大きなバンダが来訪者を迎え、整理整頓された清潔なホーム内には、いたるところに職員のアイデアあふれる飾りつけや掲示物を見ることができ、ほのぼのとした温かい雰囲気を作っています。代表の「利用者のため」「職員が働きやすい職場環境」の教えを守り、管理者は業務にあたり、職員は「のびのび自由にさせてもらっている」と、自主性を発揮しています。また、「認知症の利用者には、薬ではなく介護の質」との考えで、ケアに取り組んでいます。携帯メール等も活用し報告・連絡を密にした家族との連携は、家族から評価されています。利用者のことや職員の頑張りを嬉しそうに語る管理者のもとで職員が支える利用者の暮らしは、穏やかな空気に包まれ、まるでもうひとつの我が家にいるようなグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各階に貼り、実践につなげています	「個人の尊重」「地域のみなさまと認知症進行の防止」「家庭的な雰囲気づくり」をホームの理念としています。理念は事業所内に掲示し、職員間で共有しています。「スタッフの成績は、いつでも誰にでもホームの雰囲気を見てもらえることに現れている」と管理者が語るように、理念の確かな実践がうかがえます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のボランティア、民生員さんの来所は定期的に行っていましたがコロナ禍により現在は行えていません。	これまで、様々なボランティアの訪問がありましたが、コロナ禍ですべて中止の状況です。RAN伴(認知症の啓発イベント)は中止になりましたが、泉南市独自のWAO伴(忘れてもだいじょうぶ・あんしんと・おもいやりの町)には、ホームからも参加しました。ホーム玄関前を整備し、設立当時からあった桜の木を囲んで広場ができ、コロナ収束後は地域の方達にも使って欲しいと管理者は考えています。	玄関前の広場が、地域住民との交流の場となり、認知症の啓発にも繋がるのが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍によりキャラバンメイト等の活動が出来ていないことが現状です		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各月の会議時に報告、ご意見を頂いています。又、介護ってこんなん？と称し、ご利用者様の状態をお伝えしています。	コロナ禍のため、市職員、地域包括支援センター職員等、少数の参加で実施しています。会議では、ホーム運営の報告に加え、「介護って、こんなん」と名付け、事例紹介をしながら認知症について考える機会を作っています。	運営推進会議に参加できない委員にも、書面によりホームの状況報告をすることで、更なる理解に繋がることが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事があれば、その都度連絡し、教えて頂きます	市との関係は良好で、何かあればすぐに連絡を取り合う関係ができています。地域包括支援センターより、自宅での生活が難しくなってきた方の入居依頼があり、受け入れに際して市の担当者、地域包括支援センター職員、ホーム職員と協議を重ねる機会があり、市との連携がより密になりました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠について、徘徊のある方が多く入居されている事から、人の少ない時間帯には閉まっています	法人全体で「身体拘束廃止委員会」があり、身体拘束廃止について取り組んでいます。利用者はエレベーターを利用し、各階を自由に歩き来ることが可能です。1階玄関は、ドアチャイムが鳴り、外出を希望する利用者は、職員と一緒に出かけしています。管理者は勤務表作成時には職員の休み希望をすべて聞く等、ストレスにも配慮しています。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止等の研修の実施が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員が外部研修で学ぶ機会は少ないものの、事業所内での虐待がなれ合いや見過ごされ無い様、スタッフ同士話し合い検討し、防止に努めています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者された時点で成年後見制度を利用されていることもあり、その方たちと話す機会はありますが、学ぶ機会(研修等)は少なく全員の周知には至っておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談、文書等でお伝えし、尚かつ、不明な点は再度話しあひする様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員を固定にし家族様と密に話せるようにしています。	コロナ禍のため面会は、玄関先で原則ガラス越しで行っています。家族からより多くの意見や要望を出してもらえるように、家族が言いやすい雰囲気作りを心がけています。各ユニットで「伝言ファイル」「欲しい物ファイル」を作成し、家族が来られた時に予め用意していた内容を説明し、説明した職員と家族がサインをしています。外部評価訪問時、遠方から来た家族との面会の場面を見ることができました。制限の中で面会する利用者や家族を見守る職員の優しい表情に、日頃のケアの質を見ることができました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日頃の申し送りの時間を利用し意見交換しています。	コロナ禍のため会議は実施できていません。申し送りや日常的な伝達で情報交換を行っています。会議ができない分、情報交換が密になっています。	職員の意見や要望が言いやすい職場環境ですが、今後は職員全員で話し合える会議や各ユニット会議などの開催が期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持てるよう、管理者より職員個々の実績等について報告すると共に勤務表での勤務状況・労働時間の把握。給与水準の検討を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	モチベーション向上のため、実践者研修への受講を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着交流会や、泉南市の研修に参加する事で他の事業所との交流・意見交換しサービスの向上に取り組んでいましたがコロナ禍によりあまり出来ていません		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時、本人様と話しあい、安心して頂ける様に努めます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居前には困っている事などを、家族様に聞き取りをさせていただきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前までの趣味や育ってきた環境等お伺いしサービスの方向性について検討します。他科受診の必要な際には、家族同行出来ない場合は、こちらでの対応をさせて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にテレビを見、物づくりし、一緒に食事をする時間を設けています。又、個々に出来る事をして頂き役割・生きる意味を実感して頂ける様支援します。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その時々の様子をお伝えし、一緒に考えるようにしています。又、ご家族様より貴重なご意見等頂ける場合もあり職員の勉強ともなります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会はあります。昔からの知人の来訪に喜ばれています。コロナ禍ではありますがご本人にとって大事な(例:お墓参り)外出は行って頂ける様になっています。	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。入居時に、長年馴染んだ生活や好みを聴き取り「教えてシート」に記入しています。コロナ禍のため、友人・知人の面会は中止の状況ですが、家族と墓参りに行く利用者がいます。コロナ感染が一時的に収束した時期、米寿の誕生日を祝いたいと祝膳を持参で訪れた家族に対して、本人の年齢や状態を考慮し居室で家族と一緒に祝った利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナ禍の為、全ユニット全員が集まることは行えていませんが各階でのレクに参加し別のユニットの方同士お話しされる等、楽しく過ごされています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族様が訪問して下さりご本人の近況を教えてください、作った花・野菜等を持ってきてくださる等の交流があります。また、相談事もして下さったりもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を把握し困難な場合は本人にとってどれが良い方法かという視点で検討しています。	日頃の何気ない会話や様子から、希望や意向を把握するよう心掛けています。管理者は「利用者の顔を見て感じ散れる『察する力』」の大切さを職員に伝えていきます。日常の関わりの中での気づきや発見を、毎日の申し送りで口頭で伝えていきます。離職者が少なく、利用者との職員の馴染みの関係ができています。質の高い個別支援に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・家族様と話し合い、情報を頂く事で、把握する様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録・申し送り等で伝え、現状の把握につとめています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族様の意見も聞かせて頂き、職員同士で話し合い現状に即した介護計画を作成できるようつとめています。	介護計画は、原則6ヶ月に1回作成しています。家族や利用者の思いや意向を反映したものになっています。モニタリングは毎日のケア記録を基に「モニタリング実施記録表」にまとめ次期介護計画に繋げています。計画更新前には、担当医・介護担当者の意見を書いた担当者介護録を家族に送り、家族の意見や要望を聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙に個別ケア欄を設け記入し、申し送り時に、各階の情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況を把握し職員同士で意見交換行い対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご自身で出来る事はして頂き、出来ない所は、声かけ・軽介助等で出来る自信につながる様心掛けています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じ受診の介助をおこなっています。また、かかりつけ医と密に情報共有する事で、より良い支援を築いていけるようつとめています。	ホームの隣に系列の医療法人が運営する老人保健施設と病院があり連携しています。同病院の内科医による月2回の往診と、週1回の訪問看護があり、利用者全員が内科医をかかりつけ医に選んでいます。その他の科も症状に応じて職員同行による受診が可能です。協力病院による歯科・眼科の往診や精神科の受診も実施し、精神科は毎月、管理者が利用者の体調等の情報を医師に提供して投薬コントロールを行っています。充実した医療体制が利用者や家族の安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が毎週あり、利用者様の変化や体調等伝え一人ずつ観察して下さっています。必要に応じて受診指示や今後の対応の助言を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調不良時には受診し、必要時には入院治療しています。入院時の情報は適時交換し退院時期の相談等も話し合います		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	新入居時に、ターミナルケア等についての希望を聞かせて頂きます。老健・介護療養・病院が併設されている事からも、ご本人にとって今必要な介護・医療をご家族様と考えます。	重度化や終末期は隣接する系列病院や老人保健施設と連携し、対応しています。重度化や終末期のホームの方針は「サービス利用時リスク説明書」に明記し、利用者の入居時に家族に説明して同意をもらっています。具体的な終末期の基準としては「老衰によりムース食でも対応できない状態や、浴槽に浸かれない状態」とする一方、管理者は「自分たちができることは本当にそれだけか、ぎりぎりまで考えよう」という代表の言葉に立ち返り、日々ホームでできる最善のケアと向き合っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接の病院への受診、また、ナースにより適切な対応の仕方の支持を頂いたりしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接される施設との合同非難訓練を定期的に昼・夜想定にて実施しています。出来る限り、ご利用者さまにも参加して頂きます。	目と鼻の先にある消防署の協力を得て、隣接する老人保健施設と病院と合同で年2回、消防訓練を実施し、その中で定期的に利用者を交えたホームでの消防訓練も行っています。屋内にある避難階段につながる通路は防火扉で仕切られており、万一の際は階段の広い踊り場に出て待機するよう消防署の助言を受けています。平成30年の台風の停電も貴重な実地体験になりました。水のほかパスタやインスタント食品等の備蓄はしっかり確保しています。	災害対応マニュアルがありますが、地震や風水害の対策が不十分です。ハザードマップ等を再点検し、総合的な災害対策マニュアルの整備が望まれます。  災害時には地域の協力が不可欠です。地域住民を交えた消防訓練などに期待がかかりますが、まずは運営推進会議で災害時の地域連携を議題に上げてはいかかでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に認知症の症状が違う事から、一人ひとりの人格にあわせた言葉かけや・対応を変えています。	管理者は利用者との信頼関係を築く中、とりわけ利用者の尊厳にかかわる言葉遣いに気を配っています。利用者の呼称は原則、名字ですが、利用者が希望する場合は家族の同意を得た上で「○○ちゃん」と呼ぶこともあります。また、日常会話だけでなく記録する際にも利用者に敬意を払って「○○されました」等、敬語を使うよう指導しています。職員は介助の際に忘れず「ありがとうございます」の言葉を添えるよう心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通がうまくできない方には希望や意思決定が出来る様普段からご本人の特徴をみて対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールはありますが、ご本人の希望・気分により、適時の対応に努めています。 例) 朝食の時間・入浴回数など		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の髭剃り支援(剃り残し介助) 月一回の理美容時には、ご本人の希望の長さ・家族様からの意見。 入浴時の衣類などは、なるべくご本人様と一緒にするようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は介護食品を導入していますが 時折ご利用者様の希望の食材で手作り日にしています。 手作りの際には、会話を楽しみながら作っています。	3食とも業者から納入されるチルド(湯煎で温める方式)を利用し、ユニットのキッチンでご飯とみそ汁のみ作っています。その他、間食としてホットケーキやお好み焼き、肉まん、チーズケーキや水ようかんなどさまざまなおやつを利用者と一緒に作っています。専門店のケーキや季節の和菓子など、心弾むおやつが食卓を彩ることもあります。誕生日にはケーキやプレゼントの他、その人の好きな食べ物が食卓に上るなど、職員が企画したサプライズで場を盛り上げます。 管理者はコロナ禍以前にはしばしば実施していた外食や、寿司の出張板前サービスなども再開したいと心待ちにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録を行い水分は食事以外に起床時・入浴時・体操後・おやつ時・就寝前に補水を行っています。飲みづらい方には、ゼリー等にて代用し補水に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが困難な方には、介助にて清潔に保てるようしています。 歯磨き粉の使用が出来ない方には、水みがきを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを理解し、時間毎の誘導や排泄前の表情等を察知した誘導をすることで少しずつ無理の無い自立した排泄へと促します。又、立位が困難な方には、スタッフが2人ついでの誘導での対応をしています。	共有空間と居室にトイレがあり、利用者の多くはリビングで過ごす日中も居室に戻って排泄しています。一人ひとりの排泄状況をチェックし、見守りや誘導、介助を行っています。入居時や入院中にオムツだった利用者が、紙パンツ～布パンツになった事例が数多くあります。 歌の好きな利用者のため、共用トイレの前の廊下の掲示板に歌詞や情景を描いた楽しい掲示物を貼り、自然に誘導できるように工夫しています。 夜間もトイレでの排泄を希望する利用者が半分以上です。センサーマットを使わず、職員は時間や居室内のトイレを開ける扉の音で迅速に対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材の提供、牛乳・水分補給にて便秘予防に取り組んでいます。また、泉南市独自のWAO体操や施設内での歩行訓練等を行い予防につなげています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がる方には、時間をずらして入浴して頂いたりタイミングをはかっています。排便等にて不潔にならないよう、シャワー浴をさせていただく事もあります。	週2～3回、午前中から午後にかけて1対1介助で入浴しています。気分が乗らない利用者には時間や日を変えるなどして対応します。 「朝風呂なんて殿様しか入りませんよ」 「ニューヨークよりも入浴」など、楽しい声かけでうまくいく場合もあります。排泄で失敗した時はすぐにシャワー浴するなど迅速な対応を行っています。石鹸やシャンプーは希望や肌質に応じて個別対応も可能です。毎年、冬至には職員が家から持参する柚子で柚子風呂を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室内にトイレがあり、テレビ・パソコン・ラジオを持ち込みされている方もありご自身の部屋でゆっくり過ごして頂けます。又、昼夜逆転を防ぎ体内時計を安定させる為にも、レク(花札・トランプ・塗り絵・パズル)、WAO体操(泉南独自)を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を職員が見れる所に保管し薬が変更になった場合は様子観察おこない、主治医(内科・精神科)と随時連携を取っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	同じ趣味の人同士、他ユニットへ訪問する事もたびたびあり。(花札・カラオケ・トランプ) お一人で出来ない時には、スタッフが付きお手伝いをさせていただきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり外出制限のご協力は頂いていますが、ご本人にとって必要な外出(病院受診・お墓参り等)はして頂いています。	コロナ禍、花見や外食等はストップしていますが、家族同伴による通院や墓参り等は状況を見ながら行っています。また、日常的な外出に代わり、室内で楽しめる泉南独自のWAO体操や、トランプ、花札、パズル、塗り絵などレクリエーションに力を入れています。午後、トランプが始まると、部屋に時計がなくても昼寝から起きてリビングに出てくる利用者がいます。今後は玄関前に完成した広場を積極的に活用して、散歩を兼ねた外気浴や春には花見を計画しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は家人了解のもと行い、預かりを希望されますとこちらでの管理とさせていただきます。が、預かりさせて頂く方が増えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	こちらから手紙を出される方はほとんどいませんが、届く事はあります。 電話も同じで、かかってくる事が多いですがご自身で管理される方も増えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花札・パズル・カラオケ・トランプなどそれぞれに楽しんで頂くために、テーブルセッティングをその都度おこないます。ホールには、皆さんの作品を展示し、季節感を取り入れる様にしています。	車椅子に座った巨大なパンダが出迎えるエントランス。リビングにも大きなパンダのぬいぐるみが並び、訪れた人も思わず笑顔がこぼれる空間です。 居間兼食堂の食卓と椅子を一新、壁面を白から木目ブラウンに、窓のブラインドをカーテンに、オレンジカラーをアクセントに取り入れて、より安らげるアットホームな空間にリフォームしました。通路の壁面に設けた大きな掲示パネルには、利用者の大写真にした笑顔の写真をアレンジして職員が作った楽しい季節のアート作品を飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにてご自身の好きな椅子に座られ、お一人の空間で過ごされたり、利用者同士での会話を楽しまれたりされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた椅子・テーブル等を持ち込まれたり、携帯電話で話されるご利用者さまもいらっしゃいます。	居室も壁紙を白から木目ブラウンにしてトイレを改修、洗面台とベッドを電動ベッドに入れ替えました。整理整頓され、清潔な空間です。家族の支援で小テーブルや椅子など家具やカフェカーテン、写真などを持ち込んで利用する利用もあります。コロナ禍で家族の入室がままならない中、職員が部屋作りを支援しています。利用者の好きなタレントや野球選手の写真をあしらったパネルやモバイル、小さな鏡と化粧品などを入れた枕元のボックス缶なども職員が用意しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内のトイレの場所が分からない人には、場所が分かる様トイレのドアをはずしたり、居室の前に表札や目印を置いて、自立した生活が出来る様にしています。中には、旧姓 を貼らせて頂いてる方もいます。		